

No.	事務事業名	文化財調査・普及・啓発事業				所属部	教育部						
						所属課	文化振興課						
政策体系	政策名	0	4	育み磨きあうまちづくり			課長名	野村定美					
	施策名	0	4	伝統文化の保存・継承			所属G(係)	文化財G					
	基本事業名	0	1	伝統文化を学ぶ環境づくり			電話番号	42-1111					
予算科目	会計	一般	1	0	0	6	0	7	158090	事業名	文化財保護費	法令根拠	特になし

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)										事業期間	
市内の文化財を紹介したり、文化財を調査しその結果を知らせることで、郷土の歴史を正しく理解し、文化財を大切にすることを育む。さらには、文化財の保護や文化財を活用した地域づくりに寄与する。 全国史跡整備市町村協議会、九州地区市町村文化財保存整備協議会、全国縄文都市連絡協議会、国分寺サミットに参加し、全国各地で行なわれている文化財への取組み状況等についての情報を収集し、本市での文化財保護に役立てるとともに、市民への周知を図る。また、霧島市の文化財について全国に発信したりする。										<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ↳ (H 6 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ↳ (年度 ~ 年度)	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標									
手段(主な活動)									
19年度実績(19年度に行った主な活動)									
市内にある文化財の調査。(山ヶ野金山調査) 全史協、九文協、全国縄文都市連絡協議会、国分寺サミット出席。									
20年度計画(20年度に計画している主な活動)									
文化財の調査(山ヶ野金山)。全史協、九文協、全国縄文都市連絡協議会、縄文シティサミットへの出席。文化財調査物の刊行。									
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等									
地域住民(市民) 文化財の数									
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)									
地域の伝統文化(史跡・文化財等)について知ってもらう。									
結果(どんな結果に結び付けるのか)									
地域の伝統文化(史跡・文化財等)を学び地域を知ることが出来る。									
活動指標(事務事業の活動量を表す指標)									
名称									
単位									
ア 情報発信件数									
件									
イ 文化財調査物の刊行部数									
冊									
ウ									
対象指標(対象の大きさを表す指標)									
名称									
単位									
ア 地域(市民)の人口									
人									
イ 文化財の数									
ヶ所									
ウ									
成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)									
名称									
単位									
ア 伝統文化を知った人数									
人									
イ									
ウ									
上位成果指標(結果の達成度を表す指標)									
名称									
単位									
ア 伝統文化を知っている市民の割合									
%									
イ									
ウ									

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度(見込)	22年度(見込)	23年度(見込)
投入量	事業内訳	財源内訳	千円					
		国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	643	3,540	1,943		
	事業費計(A)	千円	643	3,540	1,943			
活動指標		ア 件	5	7	10	10	10	10
		イ 冊		300	0	300	300	300
		ウ						
対象指標		ア 人	127,615	127,773	128,128	128,383	128,640	128,868
		イ ヶ所	664	665	768	890	942	1,008
		ウ						
成果指標		ア 人	8,359	8,420	8,456	8,602	8,619	8,763
		イ						
		ウ						
上位成果指標		ア %	67.0	71.5	71	72	73	74
		イ						
		ウ						

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等									
この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?									
単人塚整備事業等、国庫補助を導入する際に全国史跡整備市町村協議会・九州地区市町村文化財保存整備協議会、同時に加盟した。上野原遺跡の発見・整備に伴い、全国縄文都市連絡協議会に加盟した。									
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?									
市町村合併に伴い、全市の史跡等を広く紹介していく必要がある。									
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?									
市内の史跡の情報について問い合わせがある。									

事務事業名	文化財調査・普及・啓発事業	所属部	教育部	所属課	文化振興課
-------	---------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている【理由】 ↷ 市内の文化財の調査や全国の先進地の文化財保護の事例等を学ぶことによって、本市の郷土の歴史を正しく理解し、文化財を大切にすることを育むことができる。また、調査研究の成果や先進地の事例等を参考することによって、文化財の保護や活用(整備)を実施し地域づくりに寄与することができる。
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である【理由】 ↷ 市内の文化財を調査し、その成果を市民に周知したり保存整備することは、市が実施すること業務である。また、全国各地で行なわれている文化財への取組み状況等についての情報を収集し、本市での文化財保護に役立てるとともに、市民への周知を図り、さらには霧島市の文化財について全国に発信したりするのも市が実施する業務である。
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか?意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 適切である【理由】 ↷ 市内の文化財に関する情報(調査研究の成果も含む)を収集・発信し、市民が本市の歴史文化を知る機会を提供することで、文化財に対し理解を深めることができことから妥当である。
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 向上余地がない【理由】 ↷ 市内には数多くの文化財が存在し、まだ詳細な実態調査をほとんど終えていない状況である。今後、年次的に調査を進めていく必要がある。また、各協議会に参加し、先進地の情報を収集していくことは今後も必要である。
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 影響有【その内容】 ↷ 文化財の調査や普及、啓発などを行なわなかったら、市民の文化財に触れる機会が少なくなり、文化財に対する認識も浅くなる。結果として貴重な文化財が年々消滅していく。
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> 他に手段がある(具体的な手段,事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合できる ↷ <input type="checkbox"/> 連携できる ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できない ↷ <input type="checkbox"/> 連携できない ↷ 他に事務事業および類似事業はない。 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない【理由】 ↷
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷ 文化財の調査については、年次的に調査対象を決めて実施しているので、調査対象の種類によって、調査に係る経費は変動する。文化財の市民への周知については、市報やホームページなどを活用しており、経費節減に努めている。加盟協議会に係る経費については、負担金など定額であるので、削減の余地はない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷ 文化財の調査については、調査対象物の所在地などを自治公民館などを通して調査依頼するなど、地域住民や文化財保護審議会委員、史談会の方々に協力をいただくことで、人件費の削減につながる。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である【理由】 ↷ 文化財の調査やその普及・啓発などは、市民全般を対象としているので、公平公正である。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN) [担当課長記入欄]

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	文化財を後世に継承していくことは、市民全体の責務でありその意識を深めることが大切である。文化財の調査やその普及啓発については、今後も続けていく必要である。事業の効率性にやや見直しの余地があるので、今後工夫をしていきたい。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) (従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	コスト <table border="1"> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		削減	維持	増加	向上				維持				低下			
	削減	維持	増加														
向上																	
維持																	
低下																	

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
文化財は当地域の歴史・文化を理解するうえで貴重な資料であり、これを後世に継承していくことは、市民全体の責務である。しかし、昨今の急激な社会基盤の変動によって、文化財は加速的に消滅している状況である。このような中で市内の文化財を紹介したり、文化財を調査しその結果を知らせることで、郷土の歴史を正しく理解し、文化財を大切にすることを育むことは、必要不可欠なことである。 文化財の調査やその普及啓発については、今後も続けていく必要であるが、事業の効率性にやや見直しの余地があるので、今後工夫をしていきたい。

No.	事務事業名	文化財保護啓発事業				所属部	教育部						
						所属課	文化振興課						
政策体系	政策名	0	4	育み磨きあうまちづくり			課長名	野村 定美					
	施策名	0	4	伝統文化の保存・継承			所属G(係)	文化財G					
	基本事業名	0	1	伝統文化を学ぶ環境づくり			電話番号	45-5111					
予算科目	会計	一般	1	0	0	6	0	7	158090	事業名	文化財保護費	法令根拠	特になし

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)										事業期間	
地域住民に市内の文化財を広く紹介することで郷土の歴史を正しく理解し、文化財を大切にすることを育むため、「霧島を知る」をテーマとした次のような、文化財保護啓発事業を実施する。 文化財に関するパンフレットの作成 市報に「郷土史への扉」を掲載 文化財保護強調週間の周知 「文化財防火デー」に合わせて、神社による防火訓練の実施 など										<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ↳ (H 17 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ↳ (年度 ~ 年度)	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標																																																																					
手段(主な活動)																																																																					
19年度実績(19年度に行った主な活動) 広報。文化財防火デー。史跡めぐりコースパンフレット作成。 広報誌に「郷土史への扉」を掲載。文化財保護強調週間の周知化。																																																																					
20年度計画(20年度に計画している主な活動) 広報。文化財防火デー。鳥津義久関係パンフレット作成。 広報誌に「郷土史への扉」を掲載。文化財保護強調週間の周知化。																																																																					
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 地域住民(市民) 市内の文化財																																																																					
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 地域の伝統文化(史跡・文化財等)を学び地域を知ってもらう。 文化財に関心を持ち、大切にすることを促す。																																																																					
結果(どんな結果に結び付けるのか) 地域の伝統文化を学び郷土を知ることができる。																																																																					
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">活動指標(事務事業の活動量を表す指標)</th> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア</td> <td>イ</td> <td>ウ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>広報活動の数</td> <td></td> <td>回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>文化財防火訓練の実施</td> <td></td> <td>回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>パンフレット等の冊数</td> <td></td> <td>冊</td> </tr> <tr> <th colspan="2">対象指標(対象の大きさを表す指標)</th> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア</td> <td>イ</td> <td>ウ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>地域(市民)の人口</td> <td></td> <td>人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>文化財の数</td> <td></td> <td>件</td> </tr> <tr> <th colspan="2">成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)</th> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア</td> <td>イ</td> <td>ウ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>文化財に関心を持ち、イベントの参加やパンフレット等を購入した人数</td> <td></td> <td>人</td> </tr> <tr> <th colspan="2">上位成果指標(結果の達成度を表す指標)</th> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア</td> <td>イ</td> <td>ウ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>伝統文化を知っている市民の割合</td> <td></td> <td>%</td> </tr> </table>										活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		名称	単位	ア	イ	ウ			広報活動の数		回		文化財防火訓練の実施		回		パンフレット等の冊数		冊	対象指標(対象の大きさを表す指標)		名称	単位	ア	イ	ウ			地域(市民)の人口		人		文化財の数		件	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		名称	単位	ア	イ	ウ			文化財に関心を持ち、イベントの参加やパンフレット等を購入した人数		人	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)		名称	単位	ア	イ	ウ			伝統文化を知っている市民の割合		%
活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		名称	単位																																																																		
ア	イ	ウ																																																																			
	広報活動の数		回																																																																		
	文化財防火訓練の実施		回																																																																		
	パンフレット等の冊数		冊																																																																		
対象指標(対象の大きさを表す指標)		名称	単位																																																																		
ア	イ	ウ																																																																			
	地域(市民)の人口		人																																																																		
	文化財の数		件																																																																		
成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		名称	単位																																																																		
ア	イ	ウ																																																																			
	文化財に関心を持ち、イベントの参加やパンフレット等を購入した人数		人																																																																		
上位成果指標(結果の達成度を表す指標)		名称	単位																																																																		
ア	イ	ウ																																																																			
	伝統文化を知っている市民の割合		%																																																																		

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度(見込)	22年度(見込)	23年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円					
		国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	2,251	367	150		
事業費計(A)		千円	2,251	367	150			
活動指標		ア 回	10	10	11	12	12	12
		イ 回	3	3	3	3	3	3
		ウ 冊	7,000	7,000	2,000	2,000	2,000	2,000
対象指標		ア 人	127,615	127,773	128,128	128,383	128,640	128,868
		イ 件	664	665	768	890	942	1,008
		ウ						
成果指標		ア 人	未把握	14,497	15,000	16,000	17,000	18,000
		イ						
		ウ						
上位成果指標		ア %	67.0	71.5	71	72	73	74
		イ						
		ウ						

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等									
この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?									
平成17年合併して霧島市となり、新しい1町の歴史や文化財を地域住民の方々にもっと知ってもらい、文化財に関心を持ち、大切にすることを目的として「霧島を知る」事業を開始した。									
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?									
合併に伴い、霧島市は数多くの文化財を有するまちとなった。これまではそれぞれの市町の文化財や歴史は学んでいたが、新しいまちのことについては知らない状況である。									
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?									
市民が合併をきっかけとして、霧島市の歴史や文化に対して関心が高まってきており、学ぼうとする市民も増加の傾向でパンフレットなどの資料請求などの要望が多く寄せられている。									

事務事業名	文化財保護啓発事業	所属部	教育部	所属課	文化振興課
-------	-----------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価					
目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている【理由】 ↷	霧島市の文化財を市民に紹介することで、郷土の歴史・文化を正しく理解し、文化財を大切にすることを心がける。結果として、政策体系の「育み磨きあまちづくり」、施策の「伝統文化の保存・継承」に結びつく。	
	公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である【理由】 ↷	霧島市の文化財を市民に紹介し、文化財の保護について理解を深めてもらうことは市の役割である。	
	対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である【理由】 ↷	文化財保護の啓発と愛護思想の高揚を進めていくためには、文化財に対する市民の意識を高めることが重要である。	
有効性 評価	成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 向上余地がない【理由】 ↷	霧島市は古くは旧石器時代から始まり、クマノ・ハヤトや天孫降臨などの伝説、古代からは大隅国の中心地として、さらには近世に至るまで産業・経済の中心地として栄えてきた。このように新市霧島には多くの文化財が点在しているため、市民に紹介したい文化財が多い。よって、本事務事業の成果を向上させる余地は十分にあると考える。	
	廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有【その内容】 ↷	文化財の周知や文化財を大切にすることを育まないと、年々文化財の消失や郷土芸能や風習、さらには年中行事、方言などが途絶えることが考えられる。	
	類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある(具体的な手段、事務事業) ↳ 夏祭りや福祉大会などに市内の文化財を紹介するコーナーを設置したりして連携を図る。	<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合できる ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 連携できる ↷	<input type="checkbox"/> 統廃合できない ↷
効率性 評価	事業費の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷	文化財の広報活動については、市報やHPなどを駆使することにより、より効果をあげることができる。地域やNPOなどが主催する史跡めぐりなどの事業を奨励することで、効果をあげることができ、さらには人件費の削減にも繋がる。	
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷	史跡めぐりコースパンフレットの作成については、印刷前にできるだけデーター化することにより、印刷製本費を削減することができる。	
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である【理由】 ↷	市報やHPなどを活用したりすることで、一様に情報を市民に提供することができる。また、ガイドブックについても有償としたので、本事業は公平が保たれている。	

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN) [担当課長記入欄]

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	他の事業と連携を持ちながら事業を進めることにより、郷土の歴史・文化を正しく理解し、文化財を大切にすることを育むことができるよう事業を展開していきたい。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																				
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) (従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	向上				維持				低下			
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
向上																					
維持																					
低下																					
<改革改善案> 市民が霧島市の文化財を学びやすい環境をつくり、郷土の歴史・文化を正しく理解してもらう。 夏祭りや福祉大会などに市内の文化財を紹介するコーナーを設置。 地域やNPOなどが主催する史跡めぐりなどの事業を奨励する。																					

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
 市民の歴史・文化を学ぶ意思を高めるには、歴史・文化に関する情報を提供する。
 市役所の他の部局との連携を密にし、各主催事業の中に市内の文化財を紹介するコーナーを設置できるよう工夫していく。
 地域やNPO団体等が文化財の大切さを認識していただき、史跡めぐりなどの事業を展開してもらう。

No.	事務事業名	郷土芸能保存団体支援事業				所属部	教育部	
						所属課	文化振興課	
政策体系	政策名	0	4	育み磨きあうまちづくり			課長名	野村 定美
	施策名	0	4	伝統文化の保存・継承			所属G(係)	文化財G
	基本事業名	0	2	保存団体への支援			電話番号	42-1111
予算科目	会計	款	項	目	事業	事業名	法令根拠 霧島市補助金等理念条例 霧島市補助金等交付規則 霧島市補助金等の種類及び補助率に関する要綱	
	一般	1	0	0	6	0		7

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						事業期間	
昔から受け継がれてきた郷土芸能を絶やさないために、郷土芸能保存団体に対して活動補助をする。また、出演の機会を提供を行う。 主な業務の内容 民俗芸能保存活動事業費補助金(運営補助) イベント等への出演依頼						<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ↳ (S 50 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ↳ (年度 ~ 年度)	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
19年度実績(19年度に行った主な活動) 霧島市補助金等の種類及び補助率に関する要綱に従い、それぞれの団体に運営補助を行った。 各種イベント等へ出演の機会を提供を行った。		ア	運営補助している郷土芸能保存会の数 団体
20年度計画(20年度に計画している主な活動) 霧島市補助金等の種類及び補助率に関する要綱に従い、それぞれの団体に運営補助を行う。出演の機会を提供を行う。		イ	
ウ		ウ	
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市民 保存団体の構成員 <補助金交付先:郷土芸能保存会> <補助対象活動:郷土芸能を継承するための運営補助>		名称	
		ア	人口 人
		イ	運営補助している保存会会員の数 人
		ウ	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 郷土芸能が保存・継承される。 伝統文化にふれる機会を持つ。		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	
		ア	発表の機会 回
		イ	
		ウ	
結果(どんな結果に結び付けるのか) 伝統文化を継承し、広めてもらう。		上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	
		名称	
		ア	郷土芸能に関わる人数(団体登録者) 人
		イ	発表を行っている団体数 団体
		ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度(見込)	22年度(見込)	23年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円					
		国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	815	496	550		
	事業費計(A)	千円	815	496	550			
活動指標		ア 団体	23	14	16	16	16	16
対象指標		ア 人	127,615	127,773	128,128	128,383	128,640	128,868
		イ 人	508	396	400	400	400	400
成果指標		ア 回	22	32	32	32	32	32
上位成果指標		ア 人	2,450	2,432	2,450	2,450	2,450	2,450
		イ 団体	44	43	44	44	44	44

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 郷土に受け継がれてきた伝統芸能を後世に残すため、また、後継者を育成するために始められた。 運営補助としては、昭和50年代から実施している。	
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? 生活文化の多様化や急速な社会変化により地域の連帯感が薄れ、地域の伝統文化などを継承する社会力が低下している。 保存会会員の高齢化が進むことで、郷土芸能保存会を継承する人が少なくなっている。(平成18年度:34団体のうち2団体が活動休止)	
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか? 地域による伝統文化の継承活動に要する経費(補助金)についてはこれまでどおり継続してほしいと、市民や保存会からの声が多い。 市民やイベント関係者等から民俗芸能を披露してもらいたいとの要望が寄せられている。	

事務事業名	郷土芸能保存団体支援事業	所属部	教育部	所属課	文化振興課
-------	--------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている【理由】 ↷ 郷土芸能保存団体支援事業を実施することで、郷土芸能保存会が運営や後継者育成に積極的になることにより、市民に対しても披露する機会が増え、郷土芸能に対する意識の高揚が図られる。
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である【理由】 ↷ 文化財の保護と活用は、地方自治法で地方公共団体の責務と規定されており、郷土芸能(無形民俗文化財)への支援は市が行わなければならない事務事業である。
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか?意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 適切である【理由】 ↷ 郷土芸能保存会へ支援することにより、円滑な運営と後継者の育成、市民への披露などが充実することから、対象・意図とも妥当である。
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 向上余地がない【理由】 ↷ 地域の行事や運動会、文化祭、市主催の行事など、これまで以上に各保存団体が出演する機会の提供を行ってきたい。
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 影響有【その内容】 ↷ 無形民俗文化財(郷土芸能、年中行事など)が一度途絶え、これを再び復活するには非常に難しい。このことから、本事業を継続する必要がある。
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある(具体的な手段、事務事業) ↷ 夏祭りなどの各種イベントに郷土芸能を披露する機会を設ける。 <input type="checkbox"/> 統廃合できる ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 連携できる ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できない ↷ <input type="checkbox"/> 連携できない ↷ 郷土芸能等を後世に残していくには、本事務事業を継続していくとともに、他の事業(郷土芸能を披露できる事業)と連携していくことも必要である。 <input type="checkbox"/> 他に手段がない【理由】 ↷
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷ 本来郷土芸能は、それぞれの地域に根付いたものであり、保存会だけの保存継承ではなく地域全体が取り組む体制が必要である。そのため、保存会への運営補助を削減することは厳しい状況である。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷ 本事務事業は郷土芸能保存会への運営補助並びに出演の機会の提供を実施しており、保存会の活性化を図るには、今まで以上の出演の機会を増やす必要がある。そのため、職員の業務はこれまで以上に増える可能性がある。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である【理由】 ↷ 本来、文化財は国民共有の財産であり、とりわけ郷土芸能はその地域の風土を色濃く残すものである。これらの方を考慮すると、保存会に対し行政が支援することはやむを得ないことである。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN) [担当課長記入欄]

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)												
<table border="0"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td><input type="checkbox"/> 適切</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	<p>本来、郷土芸能はそれぞれの地域に根付いたものであり、保存会だけの保存継承ではなく地域全体が取り組む体制が必要である。</p>
目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり											
有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり											
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり											
公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり											

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																						
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) (従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持					低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持																						
	低下																						

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
 生活様式の多様化や高齢化・少子化が進むことで、本来地域に備わっている連帯感が薄れてきている状況である。その中であって、郷土芸能を継承する人が少なくなることが懸念される。
 保存会だけの保存継承ではなく、地域全体で取り組む体制が必要である。

政策体系	No.	事務事業名	天孫降臨霧島祭実行委員会運営支援事業	所 属 部	商工観光部
	政策名	0 4	育み磨きあうまちづくり	所 属 課	観光課
	施策名	0 4	伝統文化の保存継承	課 長 名	横手 航太郎
	基本事業名	0 2	保存団体への支援	所 属 G (係)	観光グループ
				電 話 番 号	45-5111

予算科目	会計	款	項	目	事業	事業名	法令 根拠	特になし
	一般	0 7	0 1	0 4	103090	観光費		

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)		事業期間
市は、南九州神楽まつりと霧島高原太鼓祭を核とした郷土芸能を地域住民に観覧してもらうことで、郷土芸能の保存継承と啓蒙普及及び地域の活性化を目的に開催される「天孫降臨霧島祭」の実施主体である同実行委員会に運営に関する補助金を交付している。 ・開催時期：毎年8月中旬～下旬(4日間) ・開催会場：霧島神宮、霧島国際音楽ホール、霧島市市民会館 ・内容：郷土芸能の披露、特産品の販売 ・入場料：市民会館2,000円 他は300円 市の業務：補助金の交付手続き、実行委員会への参画、当日の運営参加		<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ↳ (H 18 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ↳ (年度 ~ 年度)

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	単位
19年度実績(19年度に行った主な活動)	事務事業の概要と同様	ア 実行委員会の開催回数	回
20年度計画(20年度に計画している主な活動)	前年度と同様	イ イベント当日の参加職員数	人
対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	市民 <補助金交付先>実行委員会 <補助金対象活動>天孫降臨霧島祭に要する経費	ウ	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	地域芸能に触れる機会を得られる。	対象指標(対象の大きさを表す指標)	
結果(どんな結果に結び付けるのか)	伝統文化を継承し、広めてもらう。	名称	単位
		ア 人口	人
		イ	
		ウ	
		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	単位
		ア 祭に参加した芸能団体の数(延べ)	団体
		イ 祭りを見に来た人の数	人
		ウ	
		上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	
		名称	単位
		ア 郷土芸能に関わる人数	人
		イ 発表を行っている団体数	団体
		ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度(見込)	22年度(見込)	23年度(見込)
投入量	事業費	国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	0	9,364	8,896		
		事業費計(A)	千円	0	9,364	8,896		
活動指標		ア 回	10	10	10	10	10	10
		イ 人	15	9	9	10	10	10
		ウ						
対象指標		ア 人	12,615	127,280	128,128	128,383	128,640	128,868
		イ						
		ウ						
成果指標		ア 団体	60	35	35	35	35	35
		イ 人	20,000	10,000	11,000	12,000	13,000	14,000
		ウ						
上位成果指標		ア 人	2,450	2,432	2,450	2,450	2,450	2,450
		イ 団体	44	44	44	44	44	44
		ウ						

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 平成18年より、本市の地域の伝統芸能の啓蒙を図ることを目的に開催された。	
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ 特に変化なし。	
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 特になし。	

事務事業名	天孫降臨霧島祭実行委員会運営支援事業	所属部	商工観光部	所属課	観光課																					
2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価																										
目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↘ <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている【理由】 ↘ この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか? 霧島神宮・霧島国際音楽ホール、霧島市市民会館の3会場で祭を開催し、伝統行事を披露する事は伝統文化を継承し、広めてもらうことに結びついている。																								
	公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↘ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である【理由】 ↘ なぜこの事業を市(町)が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か? 地域の伝統・歴史を市民に知る機会や学ぶ場を提供し、市民の伝統文化に対する理解を深めることは市の役割であるので妥当である。																								
	対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↘ <input checked="" type="checkbox"/> 適切である【理由】 ↘ 対象を限定・追加すべきか?意図を限定・拡充すべきか? 対象は、祭を見に来る市民で妥当である。意図は、伝統文化に触れる機会を持つことによって、伝統文化を継承し、広めてもらうことに繋がるので妥当である。																								
有効性 評価	成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある【理由】 ↘ <input type="checkbox"/> 向上余地がない【理由】 ↘ 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか? 祭の開催場所を増やしたり、参加団体を増やすことにより、市民が伝統芸能に触れる機会が増えるので、向上の余地がある。																								
	廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無【理由】 ↘ <input checked="" type="checkbox"/> 影響有【その内容】 ↘ 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は? 事業を廃止すれば、伝統芸能を披露する機会が損なわれるので影響がある。																								
	類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある(具体的な手段,事務事業) ↘ <input checked="" type="checkbox"/> 文化祭 <input type="checkbox"/> 統廃合できる ↘ <input type="checkbox"/> 連携できる ↘ <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合できない ↘ <input type="checkbox"/> 連携できない ↘ 天孫降臨霧島祭は、多くの方に見てもらうために、市内の駅や人の集まる場所で開催するので統廃合できない。 <input type="checkbox"/> 他に手段がない【理由】 ↘																								
効率性 評価	事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↘ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↘ 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 入場料を徴収し、祭の運営に充てているが、補助金の予算額も年々削減されている状態であるので削減の余地がない。																								
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↘ <input type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↘ やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど) 補助金の交付事務については最低限の事務であるので削減の余地はないが、祭の運営にかかる人件費に関しては開催場所の地域住民やボランティア等を活用することにより削減の余地がある。																								
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↘ <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である【理由】 ↘ 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか? 補助金は年々削減されているが、入場料収入は実行委員会の収入となっており、公平・公正であると思われる。																								
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN) 【担当課長記入欄】																										
(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		伝統芸能を披露する祭は少なく貴重な事業となっている。開催会場を増やしたり、参加団体の数を増やしていれば成果の向上が見込まれる。また、運営に係る人件費に関しても、関係団体や地域住民のボランティアを活用すれば削減余地がある。																								
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可			(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																							
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) (従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)			<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持			低下						
	コスト																									
	削減	維持	増加																							
成果	向上																									
	維持																									
低下																										
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 開催会場を増やすために、参加団体との日程の調整と、地域住民との協議が必要。 参加団体の数を増やすために、祭りの啓蒙普及が必要。 関係団体・地域住民にボランティアの要請をする。																										

No.	事務事業名	埋蔵文化財保護事業			所属部	教育部
					所属課	文化振興課
政策体系	政策名	0	4	育み磨きあうまちづくり	課長名	野村定美
	施策名	0	4	伝統文化の保存・継承	所属G(係)	文化財G
	基本事業名	0	3	文化財の保存・整備	電話番号	42-1111

予算科目	会計	款	項	目	事業	事業名	法令 根拠	文化財保護法 霧島市文化財保護条例

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)		事業期間
霧島市に点在する、埋蔵文化財(周知の埋蔵文化財包蔵地)を後世に残すため、民間開発業者や公共の開発部局と埋蔵文化財の保護と事業の推進を図るため、早期の段階で調整を行い、できうる限り遺跡を守るための措置を行う。		<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ↳ (H 17 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ↳ (年度 ~ 年度)

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
19年度実績(19年度に行った主な活動) 「埋蔵文化財発掘調査の手引き」の配布 開発部局・民間開発業者との調整		ア	開発に伴い埋蔵文化財の有無について確認した数
20年度計画(20年度に計画している主な活動) 「埋蔵文化財発掘調査の手引き」の配布 開発部局・民間開発業者との調整		イ	開発側と協議した数
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡) 開発中において新たに発見した遺跡		ウ	開発に伴う発掘調査を実施した数
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 埋蔵文化財を保護するため、開発行為の見直しや一部計画変更などを事前に協議する。 の協議を実施しても破壊される遺跡については発掘調査を行い、記録保存として遺跡を後世に残す。		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
結果(どんな結果に結び付けるのか) 文化財を適切に保存し、後世に残す。		ア	周知の埋蔵文化財包蔵地の数
		イ	
		ウ	
		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		ア	開発側と協議した数
		イ	発掘調査を実施した数
		ウ	
		上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	
		ア	保存されている文化財の数
		イ	
		ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込)	21年度 (見込)	22年度 (見込)	23年度 (見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円					
		国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	450	0	0		
	事業費計(A)	千円	450	0	0			
活動指標		ア 件	235	175	180	185	185	185
		イ 件	15	10	10	15	15	15
		ウ 件	5	5	5	6	6	6
対象指標		ア 箇所	516	516	516	516	516	516
		イ						
		ウ						
成果指標		ア 件	15	10	10	10	10	10
		イ 件	5	5	5	5	5	5
		ウ						
上位成果指標		ア 件	664	665	695	807	926	1,010
		イ						
		ウ						

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?	
開発に伴う埋蔵文化財の無秩序な破壊が進む中、文化財保護法の規定が整備され、当地域においても昭和50年代から発掘調査のニーズが高まり、昭和60年から専門職員を配備し埋蔵文化財保護に努め、現在にいたっている。	
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	
霧島市は宅地造成など開発が多く、そのため年間をとおして埋蔵文化財の有無の問い合わせや試掘調査・確認調査の依頼が多い。年間数件の試掘調査・確認調査・本調査を実施している。	
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	
郷土の歴史や文化、とりわけ考古学についての関心は高い。当該地域は県下でも開発行為が多い地域であり、民間開発業者においても埋蔵文化財の有無についての関心は高い。	

事務事業名	埋蔵文化財保護事業	所属部	教育部	所属課	文化振興課
-------	-----------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている【理由】 ↷
	この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?	埋蔵文化財を保護するため、開発行為の一部見直しや一部計画変更などを事前に協議し、協議しても破壊される遺跡については発掘調査を行い、記録保存して遺跡を後世に残すことで、文化財の適切な保存に結びつく。
	公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である【理由】 ↷
有効性 評価	なぜこの事業を市が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?	文化財保護業務に関しては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律で定められているので、市が実施すべき事業である。埋蔵文化財の保護については、開発部局や民間の開発業者との調整だけでは費用はかからないが、手引きなど大いに活用されているので、不足分は今後増刷していく。
	対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 適切である【理由】 ↷
	対象を限定・追加すべきか? 意図を限定・拡充すべきか?	周知の埋蔵文化財包蔵地における開発は、施工前に試掘・確認調査によって遺跡の有無を確認しなければならないので、件数は年度ごとに差異が生じるが、対象・意図ともに変える必要はない。
効率性 評価	成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない【理由】 ↷
	成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?	地方公共団体等の場合は、開発件数が把握できるが、民間の場合は不透明であるため、件数の多い年度、少ない年度とばらつきが生じてしまうため、向上させようとしても思うようにはいかない。個々の件に関して、それぞれの対応をするしかない状況である。
	廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 影響有【その内容】 ↷
公平性 評価	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	埋蔵文化財や包蔵地内での開発に関する手続き方法の周知を実施することは、文化財保護部局としては当然しなければならないものであり、埋蔵文化財保護の初歩的な事業なので、廃止・休止することはできない。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある(具体的な手段, 事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合できる ↷ <input type="checkbox"/> 連携できる ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できない ↷ <input type="checkbox"/> 連携できない ↷
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか? 類似事業との統廃合ができるか? 類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	類似事業はない。 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない【理由】 ↷
公平性 評価	事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷
	成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	事業費はかからない。
公平性 評価	人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷
	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? 成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか? (アウトソーシングなど)	地方公共団体等の場合は、開発件数が把握できるが、民間の場合は不透明であるため、現在いる職員の中で対応するしかないので、削減する余地はない。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である【理由】 ↷
事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正になっているか?	埋蔵文化財の手引きに関しては、文化振興課のみならず、建設部等でも配布していただいているので、様々な方面に行き渡っている。公平・公正になっている。	

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN) [担当課長記入欄]

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																										
目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	民間開発などはいつ実施されるかわからず、また、急を要する件がほとんどである。スムーズな業務を推進するためにも、このような協議の業務が必要になる。また、冊子を作成し、配布することで慎重な開発計画を立ててもらうことができる。																										
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																										
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) (従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">低下</td> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下	維持				低下			
				コスト																							
		削減	維持	増加																							
成果	向上																										
	維持																										
低下	維持																										
	低下																										
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																											

No.	事務事業名			文化財整備事業	所属部	教育部	
					所属課	文化振興課	
政策体系	政策名	04	育み磨きあうまちづくり			課長名	野村 定美
	施策名	04	伝統文化の保存・継承			所属G(係)	文化財G
	基本事業名	03	文化財の保存・整備			電話番号	42-1111
予算科目	会計	款	項	目	事業	事業名	法令根拠 霧島市文化財保護条例
	一般	10	06	07	158090	文化財保護費	

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						事業期間	
市内の文化財を後世に残すため、文化財の修復、復元、養生や文化財周辺の整備(史跡整備など)を行う。また、文化財の由来などを記した説明板を設置する事により、見学者に対して文化財を正しく理解してもらう。						<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ↳ (S 62 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ↳ (年度 ~ 年度)	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
19年度実績(19年度に行った主な活動)		単位	
県指定「福山のイチョウ」の養生 県指定「旧田中家別邸」の屋根修繕 市指定「羽山神社の杉」養生 文化財説明板の設置		ア	整備した文化財の数
			件
20年度計画(20年度に計画している主な活動)		イ	設置した文化財説明板・標柱の数
県指定「高座神社の社叢」イチイガシ枝木剪定 県指定「旧田中家別邸」雨漏修繕 市指定「小みかん」養生 文化財説明板の設置		ウ	カ所
対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市内の文化財		名称	
		単位	
		ア	市内文化財の数
			カ所
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
文化財の整備(文化財の修復、復元、養生や文化財周辺の整備)を図る。文化財について解説し、正確な情報を提供する。		名称	
		単位	
		ア	整備した文化財の数
			件
		イ	設置した文化財説明板・標柱の数
			カ所
		ウ	
結果(どんな結果に結び付けるのか)		上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	
文化財を適切に保存し、後世に残す。		名称	
		単位	
		ア	保存されている文化財の数
			件
		イ	
		ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度(見込)	22年度(見込)	23年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円					
		国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円		388	1,174		
		一般財源	千円	817	1,764	1,472		
	事業費計(A)	千円	817	2,152	2,646			
活動指標		ア 件	4	3	3	3	3	3
		イ カ所	25	24	20	20	20	20
		ウ						
対象指標		ア カ所	664	665	695	807	926	1,010
		イ						
		ウ						
成果指標		ア 件	4	3	3	3	3	3
		イ カ所	25	24	20	20	20	20
		ウ						
上位成果指標		ア 件	664	665	695	807	926	1,010
		イ						
		ウ						

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?	
見学者のために、文化財の正確な情報を提供する目的で説明板を設置した。	
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	
風水害等による破損や、老朽化による取替えが毎年発生している。	
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	
文化財の経緯等が、説明板でわかったという声が寄せられている。	

事務事業名	文化財整備事業	所属部	教育部	所属課	文化振興課
-------	---------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている【理由】 ↷
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である【理由】 ↷
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか?意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 適切である【理由】 ↷
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 向上余地がない【理由】 ↷
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 影響有【その内容】 ↷
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> 他に手段がある(具体的な手段,事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合できる ↷ <input type="checkbox"/> 連携できる ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できない ↷ <input type="checkbox"/> 連携できない ↷ 他事務事業及び類似事業がない。 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない【理由】 ↷
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である【理由】 ↷

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN) [担当課長記入欄]

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
<table border="0"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td><input type="checkbox"/> 適切</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	<p>文化財の現状、整備が必要な文化財を的確に捉えながら、事業の内容等を工夫し、効率性の確保と効果の向上を検討する。整備にあわせて市民への普及の方法も検討する。</p>									
目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																					
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) (従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																						
<p>台風や自然災害等により被害を受ける文化財も少なくない。その際、市内全域を限られた職員で確認することは難しい。日頃から地域住民が文化財に対して関心を持つような意識作りが必要である。</p>																						

事務事業名	郷土館等主催事業	所属部	教育部	所属課	文化振興課
-------	----------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部 (SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている【理由】 ↷ 市内の特色ある歴史・文化に触れ、郷土への造詣を深めらるるようことや、郷土館等施設の入館者の増加に努めることは、文化財を学び郷土の歴史を正しく理解することに結びつく。
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である【理由】 ↷ 地域の伝統・歴史を、市民に知る機会や学ぶ場を提供し、市民の伝統文化に対する理解を深めるようにすることは、市の重要な責務である。
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか? 意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 適切である【理由】 ↷ 市民が市内の特色ある歴史・文化に触れ、郷土への造詣を深められるようにすることは、意図として適切である。
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 向上余地がない【理由】 ↷ 特別展の内容を工夫することにより入館者の増加を図ったり、小・中学校への広報活動を推進し、スタンプラリー参加者の増加など、成果向上余地はある。
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 影響有【その内容】 ↷ 地域の伝統・歴史に関する正しい知識を知る機会を失うことになる。
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか? 類似事業との統廃合ができるか? 類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> 他に手段がある(具体的な手段, 事務事業) ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できる ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 連携できる ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できない ↷ <input type="checkbox"/> 連携できない ↷ 郷土館、歴史民俗資料館、史跡館それぞれの管理運営事業に組み入れて、館の事業の一つとして実施することは可能である。 <input type="checkbox"/> 他に手段がない【理由】 ↷
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷ 説明資料や説明板を可能な限り手作りしたり、共有化を図るなど事業費の削減に努めている。現時点においてこれ以上の削減余地はない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? 成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか? (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷ 事務事業を文化財専門指導員と担当者において行っている。業務遂行の割合を文化財専門指導員に重点を置くことも考えられるが、現時点においては難しいのでこれ以上の削減余地はない。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正になっているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である【理由】 ↷ 地域の伝統・歴史を知る機会や学ぶ場を、市民及び郷土館等の入館者に対し、広く提供しているため公平である。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN) [担当課長記入欄]

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																
目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	案内チラシや展示パネルを自作するなど、可能な限り経費をかけずに事業を展開しているが、それぞれの館の管理運営事業に組み入れられないか検討が必要である。																
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) (従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	コスト <table border="1"> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		削減	維持	増加	向上				維持				低下			
	削減	維持	増加														
向上																	
維持																	
低下																	
<改革改善案> 展示場所の工夫や、テーマを設定した企画展を行う必要がある。 各種イベントの広報周知を図る。 常設展示物の資料の入れ替えを行い、分かりやすい解説文を付けて展示する。																	
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 展示等のマンネリ化を打開するためには、リニューアルが必要だが、経費がかかるので手作りやパネル等の流用で経費の節減を図る。 市内の他の館との連携や、総合支所等における空き部屋対策を図った巡回展など考えられる。																	

No.	事務事業名	市内史跡めぐり開催事業				所属部	教育部		
						所属課	文化振興課		
政策体系	政策名	0	4	育み磨きあうまちづくり			課長名	野村定美	
	施策名	0	4	伝統文化の保存・継承			所属G(係)	文化財G	
	基本事業名	0	4	文化財の活用			電話番号	42-1111(5201・5202)	
予算科目	会計	款	項	目	事業	事業名	法令根拠	特になし	
	一般	1	0	0	6	0	7	158090	文化財保護費

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						事業期間	
霧島市は古くは縄文時代から始まり、クマツ・ハヤトや天孫降臨などの伝説、古代からは大隅国の中心地として、さらには近世に至るまで産業・経済の中心地として栄えてきた。市内には数多くの文化財が点在している。そこで、地域住民が霧島市内の文化財を見学することで、文化財や郷土の歴史への認識を深め、愛郷心を高揚するとともに、文化財を大切にすることを促す。 市報・チラシなどによる広報・募集 史跡めぐり(徒歩・バス)						<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
						<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ↳ (H 18 年度 ~)	
						<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ↳ (年度 ~ 年度)	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
19年度実績(19年度に行った主な活動)		単位	
市内史跡めぐり		ア	史跡めぐりの回数
			回
20年度計画(20年度に計画している主な活動)		イ	
市内史跡めぐり		ウ	
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市民		名称	
市内にある文化財		単位	
		ア	人口
		イ	文化財の数
		ウ	件
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
郷土の歴史・文化について学び、文化財愛護思想の普及を図る		名称	
		単位	
		ア	史跡めぐり参加者数
		イ	人
		ウ	
結果(どんな結果に結び付けるのか)		上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	
文化財を学び郷土の歴史を正しく理解する		名称	
		単位	
		ア	郷土の歴史を学んだ市民の数
		イ	人
		ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度(見込)	22年度(見込)	23年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円					
		国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	206	150	282		
	事業費計(A)	千円	206	150	282			
活動指標		ア	回	11	10	10	10	10
		イ						
		ウ						
対象指標		ア	人	127,615	127,773	128,128	128,383	128,640
		イ	件	664	665	695	807	926
		ウ						1,010
成果指標		ア	人	706	420	460	460	460
		イ						
		ウ						
上位成果指標		ア	人	8,884	8,753	9,200	9,400	9,600
		イ						9,800
		ウ						

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?	
平成18年度から開始。霧島市の歴史や文化財を広く知っていただくことを目的として開始した。	
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	
平成17年に霧島市が誕生して以来、市民の多くの方が郷土(霧島市)の歴史や文化財について、関心を寄せている。	
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	
市民から、史跡めぐりについて、もっと積極的に広報してほしい。 史跡めぐりの参加者から、今後も続けてほしいという要望が寄せられている。	

事務事業名	市内史跡めぐり開催事業	所属部	教育部	所属課	文化振興課
-------	-------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部 (SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている【理由】 ↷ 霧島市の文化財を巡ることで、郷土の歴史・文化を正しく理解し、文化財を大切にすることをすることができる。
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である【理由】 ↷ 霧島市の文化財を市民に周知し、文化財の保存・伝承について理解を深めてもらうことは市の役割である。
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか? 意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 適切である【理由】 ↷ 文化財保護の啓発と愛護思想の高揚を進めていくためには、文化財に対する市民の意識を高めることが重要である。
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 向上余地がない【理由】 ↷ 霧島市は古くは縄文時代に始まり、クマソ・ハヤトや天孫降臨などの伝説、古代からは大隅国の中心地として、さらには近世に至るまで産業・経済の中心地として栄えてきた。そのため、新市霧島市には多くの文化財が点在しているが、市内の文化財の所在や歴史・文化について知らない市民が多い。よって、本事務事業の成果を向上させる余地は十分にあると考えられる。
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 影響有【その内容】 ↷ 文化財の周知や文化財を大切にすることを育まないと、次第に文化財の消失や郷土芸能や風習、さらには年中行事、方言などが途絶えることが考えられる。
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか? 類似事業との統廃合ができるか? 類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> 他に手段がある(具体的な手段, 事務事業) ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できる ↷ <input type="checkbox"/> 連携できる ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できない ↷ <input type="checkbox"/> 連携できない ↷ 史跡をめぐり、市民が直接文化財に触れることは非常に大切なことであり、実物に優るものはない。 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない【理由】 ↷
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷ 本事業は、外部講師の謝金、バスの借上げなど、必要最小限の予算で実施しているが、参加者に参加料を求める(バスによる市内めぐり)などの工夫が必要である。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? 成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか? (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷ 本事業の業務内容は、参加者の募集、資料作成、当日の史跡めぐりなどであり、外部に委託する業務はない。(講師は外部から招聘することがある。)
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正になっているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である【理由】 ↷ 事業の広報も市報やチラシで行っており、市民に広く呼びかけている。バスによる史跡めぐりは募集人数に制限があるため、はがきによる募集を行い、定数を越えた場合は抽選を行っているため公平である。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN) [担当課長記入欄]

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																
目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	文化財保護の意識啓発のために、市民が歴史に親しみやすいコース作りに努めることに留意していくことが重要である。また、参加者へ参加料を求めるということも検討の余地がある。																
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) (従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	コスト <table border="1"> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		削減	維持	増加	向上				維持				低下			
	削減	維持	増加														
向上																	
維持																	
低下																	
<改革改善案> 霧島市内の、歴史、伝統文化、文化財について知らない市民が数多くいる。また、職員も把握しきれていない文化財等も数多く眠っている。霧島市の重要な文化財等を保存・活用していくためには、職員の研鑽と市民の意識向上が必要であると考え。集合場所など、課題は多くあるが、新たなコースを開拓し、多くのリピーターを呼び込めるようにしていくことが課題である。																	
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 新たなルートの開拓には、集合場所や安全面など様々な課題がある。実際に歩いてみなければならないようなこともあり、業務としては大きな負担となる可能性がある。日常の業務の中から、史跡めぐりができるような文化財を見つけ、地域の特性を研究することが重要である。																	